

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4791500020		
法人名	有限会社 かるすと		
事業所名	グループホームもとぶ		
所在地	沖縄県国頭郡本部町豊原262番地1		
自己評価作成日	平成31年1月31日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kajigokensaku.mhlw.go.jp/47/index.php?action_kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JivvosvoCd=4791500020-00&PrefCd=47&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 沖縄タイム・エージェント		
所在地	沖縄県那覇市上之屋1-18-15 アイワテラス2階		
訪問調査日	平成 31年 2月 22日(金)		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

豊かな自然に囲まれた当事業所は見晴らしがよく遠くは八重岳、瀬底島が望め室内は木目を多く使い明るく暖かな
 落ち着いた環境の中で入居者様と裏庭で小さいながらも畑で育てた野菜を収穫したり海を眺め日光浴を行い天気の良い日はドライブがてら入居者様と買い物や近くの公園へ出かけたりと、恵まれた環境で日々落ち着いて過ごしていただけるよう1人1人のペースを大切に家庭的で楽しく安心して生活できるように支援しています

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の敷地内には同法人のグループホームが併設されており、お隣さん感覚で2事業所の利用者や職員が声掛けし合い笑顔あふれる交流を楽しんでいる。また、平屋で出入りがしやすく戸外交流が円滑にできるようトイレが設置されており、迷い鶏が住み着いている裏山など自然の景色が敷地内で楽しめる。事業所内の雰囲気も穏やかで利用者一人ひとりがゆったりと思いいに笑顔で過せるような支援を行っている。事業所内の研修や運営推進会議の内容も「接遇マナーから虐待防止法・権利擁護と成年後見制度等」内容の深い話し合いが行われている。グループホームの事業所として、今後の地域での役割や交流も積極的である。事業所主催の白寿祝には利用者の家族や友人、民謡謡愛好会が訪れ島言葉ユンタク会の集まりや青年会のエイサー訪問、地域の住民から野菜の差し入れ等の訪問があり、同敷地内にあるグループホームとレク交流を楽しんでいる。利用者の「思いは今が旬」との考えで、できるだけ出かけたかったり食べたいとの訴えがある時に個別で外出支援や家族の行事などにも参加できるよう支援している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	h
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所理念を施設内に掲示している。また名刺の裏にも記載している。半年に1度ミーティングで取り上げ全職員に地域密着型サービスの意義の周知を計り、地域に出かけるなど、地域との関わりを継続できるように支援している。	開設時、職員全員で「利用者の今までの生き方を尊重し自由な安心できる」支援をしたいとの想いで作成した理念を掲げ、日常支援やミーティング等で振り返り、利用者一人ひとりの思いや暮らし方を尊重し寄り添う支援を継続している。又、地域交流には積極的に参加し地域住民が気軽に立ち寄れる開放的な事業所を目指している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町主催の敬老会参、字の公民館主催『キッチンとうばる』『体操教室』に参加している。また地域青年団によるエイサーや民謡愛好会の方々や小学生の慰問を受け入れている。	区主催の独居高齢者支援の「キッチンとうばる」やミニデイの体操教室、運動会、夏祭りや敬老会等に参加している。事業所主催の白寿祝には利用者の家族や友人、民謡愛好会が訪れ島言葉ユンタク会の集まりや青年会のエイサー訪問、地域の住民から野菜の差し入れ等の訪問があり、同敷地内にあるグループホームと玉入れ等のレク交流や団楽を楽しんでいる。	現在も地域交流を積極的に参加し地域住民の訪問も日常的に継続しているが、今後は地域住民が散歩や通り掛かりに「気軽に立ち寄って一休みして利用者や職員と交流を楽しめる場になれるよう」地域交流を展開したいと管理者職員は模索している。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症キャラバンメイトがスタッフにいるため地域の公民館でサポーター養成講座を開催している。町主催の福祉祭りに入居者の作品を出展したり、認知症のパンフレットを配布して認知症に対する理解を広めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	利用者状況、行事、ヒヤリハット、避難訓練、外部評価など取り組み状況を報告し意見をもらったものを、ミーティング時で職員間で話し合いサービスに活かしている。また参加できない家族に対して議事録をに送付し報告している	運営推進会議は2か月に1回定期的に利用者、家族、地域住民、介護有識者、役場担当者、社協職員、管理者が参加し入居の状況やヒヤリハット報告を行っている。また、認知症徘徊SOSネットワークや介護現場の接遇5原則等の研修報告や虐待について等多様な内容を議題にしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	地域包括職員や福祉課職員へ相談や情報交換などを行い連携を深めている。役場担当者から新規利用者の相談があったり、認知症カフェについて他市町村の情報を頂いたり、SOSネットワークでの連携を図り協力関係を築いている。もとぶた会議に参加している。	町からは権利擁護や成年後見制度、高齢者虐待、町認知症徘徊SOSネットワーク、介護保制度改正についての研修案内や災害避難体制等の情報提供があり、町主催の敬老会や福祉祭りなどの行事の参加している。事業所からは生保給付に伴う手続きや町から依頼されるキャラバンメイトの講習会に協力している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	h
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	研修会に参加し職員ミーティングで研修を行い身体拘束での弊害を職員に伝え共通認識をとれるようにしている。	「身体拘束や其れに繋がる行為はしない」事を方針として掲げ研修や会議で共通理解し、スピーチロック「ちょっと待って」等のグレーゾーンについても検討し話し合いを行っている。外出希望には職員が付き添い、金銭所持にも家族に確認し対応している。身体拘束をしないケアに関しては入居時に利用者と家族に説明している。	
7	(6)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や研修を行い身体拘束での弊害を職員が理解し日中は出入りは自由に行えるようにしている、1人で出た際は安全に配慮し必ず職員が付き添いを行っている。	利用者の行動や表現を規制することなく、「利用者が安定した日常生活を営むことができるよう支援する」ことを事業所の理念に掲げて職員は寄り添い、日々振り返り話し合いを行っている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在成年後見制度を利用している入居者はいないが、役所にて制度についてアドバイスをいただいたり情報を交換したりしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際は、契約書と重要事項説明書を読み合わせを行って説明している。質問や不安に思っていることなどに答えながら理解と同意を頂き契約を行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者には意思、希望の確認、家族は面会時や運営推進会議などで意見や要望を聞くようにしている。職員や代表者と検討し運営に活かしている。	利用者は「家に帰りたい・買い物に行きたい・ステーキやケーキが食べたい等」の思いがあり、その都度ドライブや買い物・帰宅等支援している。家族は「利用者が思うように暮らして欲しい」と考えている。担当医と調整し喫煙やビールを買いに行かれる方もいる。家族親戚友人の面会時に外出や外食ができるよう支援している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	h
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎朝の申し送り時や日中のミニミーティング毎月のミーティング時に職員から出た意見提案を生かせる様に職員で共有検討を行い運営に反映させている。	月1回の職員会議やミーティングで利用者の要望や状態を共通認識しリスクの防止や、「介護職員の接遇5原則」を用い研修したり、職員は利用者一人ひとりの要望に寄り添いたいと考えている。又、レク活動や民謡等は得意な職員が担当し、認知症講座に派遣もしている。	
12	(9)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年1回の健康診断の実施や資格所得に向けて、時間的支援や子育て中の職員には子供の発熱や体調不良時には早退したり休みを取れるようにしたり、職場環境・条件の整備に努めている。	定期的な健康診断やインフルエンザの予防接種を施行し職員の健康管理や勤務調整に配慮し、介護業務が過重な時期は人員を補充している。職員採用は職員の紹介が多くチームワークを作りやすい。外部研修等職員の資質向上にも積極的である。	
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内で勉強会を行ったり、研修や講演会などに積極的に参加し、ミーティング時に報告を行い全職員が学べるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に他事業所の方に参加してもらったり、北部地区ケアマネ連絡会やもとばた会議(町づくり会議)に参加し意見交換を行っている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前に施設見学と相談受付、入所後に面談を行いその方の生活状態を把握する様に努めご本人が求めていることや不安を理解することを心がけている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	h
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前に家族も一緒に見学や他入居者とふれあい、どのように事業所で過ごしてもらいたい、緊急時の対応や不安・困っていること等を聞いて、安心して利用者を預けてもらえるよう支援している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	早急な対応が必要な相談者には可能な限り柔軟な対応を行い場合によっては他事業所のサービスを紹介するなどの対応をしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	炊事、洗濯、掃除など入居者の得意なことを伺ったり、教えて頂きながら力を発揮していただいている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の思いに寄り添いながら、日々の暮らしの出来事や要望をご家族へ電話連絡や面会に訪れた際に報告している。		
20	(10)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの美容室や店、行事に参加したり法事など出かけた場合はご家族へその旨を伝え、協力してもらったり、職員が同行し支援している。	公民館主催のやんばるキッチンや忘年会、敬老会等に参加し、帰宅時は家族と近所の友人達と誕生会等の食事会を楽しみ、サークル仲間との交流も継続している。又、昔からのマーケットに出かけ、正月や盆、シーミー、旧暦の16日等も帰宅し馴染みの人や場所の関係継続を支援している。入居前からのなじみの美容室に家族の協力を得て出かけている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	h
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者間での相性を見極め、会話を楽しめるように席決めを行い孤立しないように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、家族が次のサービスに継げる支援をしたり、必要に応じての相談を受けフォローするなど、相談や支援に努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(11)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入所前に希望要望を本人と家族から聞き取りを行い入所後も日常会話などから本人の暮らしの希望、要望を聞き本人の意向を把握するように努めている。	表情で日常会話の中で「外出したい・買い物に行きたい・家族友人に会いたい・居室でゆっくりしたい・民謡を聞きたい聞きたくない」等の様々な思いがあり利用者の「思いは今が旬」と考え、できるだけ訴えがある時に個別支援している。言葉で表現できない利用者には態度や仕草等で判断し笑顔や表情を確認し支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族に私の記録やジェノグラムを記入して頂き、友人、知人より話を伺い生活歴の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	歩行状態、バイタル測定、食事摂取動作会話などを通して把握に努めている		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	h
26	(12)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日常会話の中から本人の希望や意向を聞き面会の折りに家族の希望や要望を聞き送りやミーティングでスタッフから意見を聞いている。	サービス担当者会議は利用者、家族、職員、管理者、介護支援専門員が参加し要望に沿った目標とケア内容や項目を個別的に計画し利用者家族の承認を得て支援している。経過記録は介護職員が手書きの生活状況とケアメニューに沿って記録し、モニタリング、再評価は介護支援専門が毎月行っている。又、状態変化による計画の変更に応じている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ミーティングでの報告や申し送りノートを活用し情報の共有を行っている、個別記録を通し介護計画に活用している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時々希望や意向本人の状態に合わせたケアを心がけている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	海洋博公園や、さくらまつり、シークワサー祭りなど地域主催の催しにさんかしたり、ゴールデンシャワーなど花見の名所にドライブしたりと、利用者が楽しみながら暮らしていけるよう支援している。		
30	(13)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1度の訪問診療時、主治医に病状や不安などの状態の報告し適切な医療を受けられるように支援している。歯科や精神科は個別で受診している	入居前からのかかりつけ医を継続している方や希望に応じ訪問診療に変更された方もいる。訪問診療時の結果は家族が面会時に直接話したり電話連絡をして共有している。他科受診は家族対応としているが、困難な場合は事業所が送迎を行い病院で待ち合わせし受診している。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	h
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入院時には面会へ行き、看護師や医師に話を伺うようにしている。退院時のカンファレンスも出席するようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には日常生活や服薬・身体状況の報告を行っている。面会時は必ず医師や看護師との情報交換を行っている。		
33	(14)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時や面会時に、家族と話し合いを行い終末期の希望を聞き取りを行っている。現在施設での看取りはない。	重度化した場合における指針も明文化されており、入居前に本人、家族に説明し同意を得ている。状態変化時にも説明を行っているが、医療的ケアが必要な場合は病院へという家族の希望もあり、今のところ看取りは行っていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法など消防署で消防職員より講習を受けたり、定期的に施設において再確認を行っている。		
35	(15)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に利用者とともに避難訓練を行い、方達にも協力してもらっている。災害時に備え、備品なども点検し準備している。	災害時対応マニュアル(火災・地震・風水害)も整備されている。昼夜想定避難訓練は年2回行われ、近隣住民も参加し災害時の協力体制が整っている。防災設備の点検を実施し、災害持ちだしグッズや備蓄も3日分用意されている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	h
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(16)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ誘導声かけや入浴などできるだけ同性職員が行っている。カーテンを閉めるなどプライバシーの確保に努めている、普段の会話でも人生の先輩として話しかけをおこなっている。	プライバシー保護マニュアルが作成され、排泄や入浴は同性介助を基本とし、自尊心に配慮した支援を行っている。言葉かけにも気をつけ、悩み事や家族のことなど大勢の居る場ではなく、個別の時に話すようにしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	落ち着いた気持ちで接し話やすい環境を作りひとり1人に合わせ自己決定ができる話しかけをおこなっている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員が強制することなくその日の入居者のペースを大切にテレビを鑑賞したい方居室で休みたい方各々のペースを大切にしている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	馴染みの美容室へ娘と知人と出かけたり移動美容室に事業所に来てもらい、希望に合わせたカットや毛染めをしてもらうなどの支援を行っている。		
40	(17)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事の下ごしらえや準備ができる方は職員と一緒に手伝ってもらいその人の力を発揮していただいている出来ない方にもテーブル拭きなどを手伝ってもらっている。利用者と職員と一緒に食事をして好みや調理法など話している。	利用者が下ごしらえや味見など、体調に合わせて職員と一緒にいき、3食とも事業所で手作りしている。職員一緒に食卓を囲み同じものを食べながら話が弾み楽しく食事ができている。魚の移動販売車が来るときは刺身を買って夕食に出したり、パンの移動販売車で利用者が好きなものを選びおやつに買っている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	h
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者の好みの飲み物食べ物を提供したり食事時間をその日の本人のペースに合わせて提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後の口腔ケアは、声かけで行う方や歯ブラシやコップなどを準備すると行う方など、一人ひとりの力に応じた口腔ケアを支援している。訪問歯科で診てもらい治療している。		
43	(18)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ひとり1人の排泄パターンを把握し日中は居室トイレや共同トイレにて排泄を行っている	ほとんどの方は日中はトイレで排泄している。介助の必要な方は排泄パターンを活用し、事前に声掛けをし居室にトイレが備え付けの3部屋のトイレや共同トイレで排泄し、排泄の自立に向け支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩を行ったり、便秘予防体操を行っている。食事に関してはヨーグルト、牛乳の提供や繊維食提供を行っている。便秘が続くようなら主治医に相談している		
45	(19)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴介助はできるだけ同姓介助で行っている。入浴曜日決まってはいるが、本人の希望で曜日を変えたり時間をずらしたり個人の希望を取り入れている。	週3回を基本とし同性介助で入浴できるよう支援しているが希望があればいつでも対応している。できるところは自分で、利用者の入浴習慣を考慮し見守り支援を行っている。現在のところシャワーのみとなっているため県外出身の利用者のために冬は浴槽が欲しいと考えている。	

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	h
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ご本人が休みたい時に休息され入居者の生活リズムを大切にしている使い慣れた寝具を使ってもらい気持ちよく眠れるよう支援している。		
47	(20)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別日誌に薬情報をファイルし職員が把握できるようにしている薬の変更があった場合は連絡表や申し送りノートに添付している。	前日の夜勤者が薬をセットし、日勤者がチェック、本人に薬を渡す時にも声出し確認をし、服薬、飲み込みまで確認している。服薬後の空袋も確認後に廃棄している。薬拒否の方には薬剤師とも相談し薬を減らしたり、飲ませ方や声掛けに工夫をし職員全員で共有している。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たみや洗濯干し、お茶葉の袋づめや野菜のカット、チラシでのゴミ袋づくりなど個人の特技を活かし役割を持っていただいている、また、ドライブや民謡ボランティアの慰問など楽しみの時間を支援している		
49	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的に職員が役場や買い物する際は入居者にも声をかけ外出支援をおこなっている、本人の希望があれば家族、職員同行で外出できる体制をとっている。	買い物に行きたい、外食したいなどの希望に利用者の「思いは今が旬」と考え個別で外出支援を行っている。又、八重岳の桜祭りや海洋博の花火大会、浜下り、昔からあるマーケットに出かけ、正月や盆、シーミー、旧暦の16日の家族との行事にも参加できるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ほとんどの入居者が金銭管理が難しい為家族や職員が管理している、希望があれば職員が付き添い支援している。		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	h
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者が連絡を取りたい時に自由に電話を使用できるように支援している。ご家族にも入居契約の際本人の希望があれば電話を行う旨を伝えている		
52	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	空気の入れ替え時に外気温との気温差が変わらないように注意しその際に不快でないかの確認を行っている。また音に敏感な方にはなるべく大きな音を立てないように配慮している	事業所は平屋で玄関を入ると木目調の落ち着いた居間に季節の飾りや花が飾られている。テレビの好きな方の特等席やソファでくつろいだり、食卓テーブルで作業を手伝ったりと好きな場所で過ごしている。玄関にはソファが設置され、一時休憩や外出時の履物の脱着に活用されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士がお互いの部屋へ行き来したり、楽しくゆっくり会話が出来るようにお茶やお菓子を用意している。また1人になりたいと感じさせる場合は必要以上に深追いせず、入居者のペースに沿うように心がけている。		
54	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真や飾り物など本人の好みやご家族から本人が使い慣れた物を持ってきていただき本人主導で配置を行っている。掃除で居室に入室する際配置が変わらないよう注意をしている。	ベット、カーテン、棚、洗面台が備え付けられ本人の使い慣れた鏡台などを持ち込み、本人、家族と話し合い導線に合わせた模様替えを行い、その人らしい居室となっている。壁には家族の写真や利用者の作品などが飾られている。温度や湿度にも気を付け、乾燥時は濡れたタオルをかけておくなどしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレやシャワー室の場所、入浴中と明記している。居室入り口に利用者の名前を張り出し自分の部屋がひと目でわかるようにしている、ベッドの高さや位置等もその人にあわせ調整している		

目標達成計画

作成日:平成31年4月5日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2(2)	現在も地域交流を積極的に参加し地域住民の訪問も日常的に継続しているが、今後は地域住民が散歩や通り掛かりに「気軽に立ち寄って一休みして利用者や職員と交流を楽しめる場になれるよう」地域交流を展開したいと管理者職員は模索している。	地域の方々に気軽に立ち寄ってもらえる場所作り	交流会などの開催、地域行事への参加の際の声掛け	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。